育成会たより
第4号
2012 MARCH

てをつなぐ

題字：田中 尭さん

編集・発行　社会福祉法人　鹿児島市手をつなぐ育成会
〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯2−1−1 鹿児島市知的障害者福祉センター2F（ふれあい館）
Tel・Fax 099−264−8725　URL：http://www.i-omoto.jp/tewotsunagu/
希望の園 ／ 育成センターコスモス ／ 第二コスモス ／ とまと ／ さくらんぼホーム ／ すみれホーム
めぐみ福祉作業所 ／ さをり工房“うぇ〜ぶ” ／ ワークセンターふもと

鹿児島市手をつなぐ育成会 成人式（ふれあい館）

地域の一員としての施設

育成センターコスモス
施設長　上村 伸雄

育成センターコスモスは犬迫町にできて十六年目になります。とんがり屋根のある薄いベージュ色の建物は地域に受け入れられ、地域の一員としての役割を担っていると考えています。

コスモスの周辺は開所の頃に比べるとバイパス道路ができてから賑やかになり、交通量も増え、スーパー等もでき、歩いて買い物活動を行うこともできるようになりました。このように周囲が変化する中で、コスモスでは犬迫小や石谷小児童と利用者との交流、犬迫町内会の祭りへの利用者の参加やおはら祭り前夜祭への職員の参加を通して地域行事へ参加するとともに、毎朝、始業前に職員による施設前の道路の清掃、地域のスーパーからの物品購入など地域に根ざした活動を行っています。

国は、地域の一員としての福祉施設の役割として地域行事への参加だけでなく、施設の開放、施設の有する様々なノウハウ・人材などを生かした情報提供・相談活動等を行うなど専門性を地域に還元することを期待しています。育成会の施設は分散しており、地域に溶け込みやすい状況にあることからも、各施設で何ができるかを考え、地域への貢献度を高めて行きたいものです。

新成人おめでとうございます

成人をむかえて

太田 一希

ぼくは、二十才になっても今の仕事を一生けん命やっていきたいと思います。

作業所がたとえかわってもみんながいればがんばる勇気がでてきます。

今年もみんなと仕事を一生けん命したからみんなといっしょにこの一年をのりきることができました。これからも今の仕事を大波にのったつもりでがんばっていきたいと思います。

成人式を迎えて思うこと

今園 由香

成人式に着物で出席して大人になった気がしました。私が通う、さをり工房のみんなに祝ってもらえたことが何よりもうれしかったです。みんなに負けないぐらいさをり織りを頑張ります。

この日を迎えられたこと、支えてくださった方々に感謝したいと思います。新たなスタートとし、つながりを糧に親子共に頑張ってゆきます。（母）

成人式を迎えて思うこと

平峯 克也

二十歳になりました。息子は、少し頑固なところはありますが、ひょうきんで優しい青年に成長してくれました。これまで支えてくださった方々に心から感謝申し上げます。

これからも、大好きな風船バレーやバトミントン等をいっぱい楽しんで、笑顔の多い人生でありますようにと願っています。（母）

かおりの成人

岩瀬 かおり

娘のかおりは現在、自立支援センターハーモニーへ毎日元気に通っています。

掃除や作業等、目標を持ってみんなと楽しく過ごしている様子に私たち親も一安心しています。三度の大きな手術を受けて体は小さいけれど口は達者な娘、最近は親やまわりの様子をよくみての行動も少しできてきています。

これまでの二十年間、娘にかかわってくださった多くの皆様に感謝いたしますと共にこれからもよろしくおねがいいたします。（母）

家族研修会

今年度も、二回の家族研修会を実施しました。

第一回がＫＴＳの気象予報士の新井雅則さん、第二回がミュージシャンの木下航志さんでした。

前者の後援会では、これまでの新井さんの興味深いお仕事の話、後者のトーク＆ライブでは、木下さんのピアノの練習量等プロの音楽家の厳しさに触れることができました。

木下航志さんトーク&ライブの様子

新井雅則さん講演会の様子

武岡台養護学校♪学習発表会♪

武岡台養護学校　森 洋子

十二月三日に、武岡台養護学校第三三回学習発表会が開催されました。小学部から高等部までの三七四人の児童生徒が日頃の学習の成果を舞台発表と作品展示において発表しました。

児童生徒会を中心にみんなで考えたスローガン「みんなドキドキ　みんなキラキラ　みんなニコニコ～とどけよう、元気と勇気」を胸に、学習発表会を盛り上げました。東日本大震災があった今年、演目も「希望」「輝け命」「がんばろう日本・みんなに元気を！」など、命や勇気をテーマにしたものが多くありました。

当日の舞台発表は、小学部一年生の演目で幕が開きました。動物の姿で登場した一年生が、ダンスをしたり、運動をしたりと、元気とかわいさいっぱいの演技を披露しました。中学部三年生は、三十分近い劇に挑戦しました。長いせりふと大きな動作でクリスマスに起こる温かい人と人との絆について表現しました。そして、最後は高等部三年生の「思い出の一ページ」。三年間の思い出をダンスやストンプで振り返りました。三年生全員で今までの感謝の気持ちを込めながら歌った「どんなときも」では、涙を流す生徒もいました。

舞台発表と合わせて、教室等では作品展示も行いました。どんぐりで作った大きなトトロや自分そっくりに描いた自画像、学習の中で調べて粘土で自分なりにとらえた姿を表した動物など多くのユニークな作品を展示しました。

児童生徒は、学習発表会当日に向けて毎日練習を頑張りました。練習が嫌だったり、舞台に立つのが苦手だったりする子どもたちも、あきらめずに最後まで練習を頑張りました。そして、多くの方々の前で発表できたことは、大きな自信になったと感じます。当日のアンケートの中で「感動した」「生き生きとした発表だった」との言葉をいただきました。児童生徒にとって、一生懸命練習を頑張り、感動を届けられたことは、貴重な体験になったと思います。

最後になりましたが、お忙しい中たくさんの御来場をいただきまして、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

ふようまつりの紹介

附属特別支援学校　有田 成志

十一月十九日㈯に、ふようまつりを実施しました。ふようまつりは、児童生徒が、みこしパレードや販売活動を通して、集団への所属意識や達成感をもつことができるようにすること、近隣の学校や地域の方々と触れ合ったり、特別支援学校に対する理解・啓発をしたりする機会とすることを目的に、毎年実施している大きな行事の一つです。

今年もふようまつりに向けて、小学部は手作りのゲームやカレンダーの制作、中・高等部は、日ごろの作業学習で取り組んできた木工や手芸、窯業の製品づくりを中心に、全校挙げて協力しながら準備を進めてきました。

そして迎えた当日、思いもよらなかった季節外れの荒天のため、会場をすべて校舎内に移しての開催となりました。不安いっぱいのふようまつりのスタートとなりましたが、荒天にもかかわらず多くの方々に来校いただいたことで、子どもたちの生き生きとした表情が見られたり、元気のいい呼び声がたくさん飛び交ったりと、例年以上のにぎわいを感じることができました。

校舎内の開会式（初!!）

にぎわった販売活動!!

また、子どもたちの活動と並行して行ったＰＴＡバザーでは、保護者が一学期から準備してきた手作り品や軽食（うどん、カレー、おにぎり、焼き鳥、たこ焼き）、駄菓子や綿菓子、ポップコーン等が販売され、多くの方々でにぎわいました。

児童生徒の頑張りはもちろんですが、保護者、関係機関や地域の方々など、本当に多くの皆様の御協力のおかげで、天候に負けない素晴らしいふようまつりになったことに感謝します。

来年度も実施しますので、是非ふようまつりにお越しください。

準備万端整う、開校も目前

改修が終わった校舎

鹿児島高等特別支援学校長　堂免 良久

東坂元三丁目の高台にアイボリーの壁面にブルーのラインが輝く三階建ての校舎が見えます。それが今年四月に開校する鹿児島高等特別支援学校の校舎です。

本校の開校に向けた諸準備に当たっては、昨年四月に開校準備室を鹿児島東高校内に設置し、事務補助職員を含めた五人のメンバーで様々な業務に取り組んできました。本校だけで遂行できない事項も多く、県教育委員会の指導の下、隣接する鹿児島東高校とも連携しながら進めてきた次第です。

特に校章を制定する際には、美術を履修している鹿児島東高校の生徒たちから原案を応募してもらうなど、多大な協力をいただきました。寄せられた原案にはそれぞれ説明が書き添えられており、「健常者と障害者との壁がなくなったらいいと思いデザインした。」「高等特別支援学校の生徒たちに大きく羽ばたいてほしいと思いデザインした。」「この場所をホームにみんながみんなを支えるという思いで描いた。」など、本校や本校の生徒に対する思いや願いを知ることができました。数多く寄せられた原案の中から一年生の男子生徒の作品に基づき校章を制定することができました。

このほか校歌や制服、体育服等については近隣の特別支援学校の支援を得て制定・選定することができました。また、入学者選考業務や教育課程の編成に取り組むとともに、学校ホームページの開設や学校説明会の実施など広報活動にも積極的に取り組みました。

いよいよ四月からは三十二人の生徒たちを迎えることになります。新設校として特色ある教育活動を積極的に展開し、本県特別支援教育に新たな歴史を刻みたいと考えます。

校章の説明

- 中央の輪は両校や両校生徒同士の協力を表す。
- 台形は学校から見える桜島、その上の滴形は噴煙であり、二つの形で目標に向かって努力し、向上する姿を表す。
- 周囲の３／４の円は錦江湾と鳥が翼を広げ飛ぶ姿をイメージし、社会に大きく羽ばたいてほしいという願いを込めている。

希望の園との交流から

民生委員　松葉口 和美

秋晴れの空の下、希望の園利用者の方々、隣接する保育園児、それと民生委員三者合同での運動会に参加しました。

希望の園の方々も保育園児も一生懸命です。狭い公園で全力疾走してバトンを渡し、玉運びをします。私たちも年を忘れ、つい本気になって走ってしまいました。

半日の運動会でしたが可愛い子供たちや一生懸命な園生の方々と一緒になって笑い、汗を流しました。お茶タイムには保護者のお母様方とも話ができました。

このような交流を重ねることで見えてきたことがいくつかあります。

その一つが〝人は人中〟。仲間とのふれあいがいかに大切か。その人の幸福度、満足度は比較にならないくらい大きいのではないかということです。仲間と一緒に作業し運動する彼らの姿は実に一生懸命で生き生きしています。

二つ目は、お世話する職員の皆様が忍耐強く穏やかにサポートする姿です。固有名で呼びかけ丁寧に話し掛けています。若い人が多いのに偉いなぁと感心してしまいます。

三つ目が親同士の絆の強さです。

ある会合で東日本大震災に話題が及んだ時のことです。「あのような状況下ではうちの子は逃げられないだろうな」と親としての不安と焦りで胸一杯になったお母さんに対し、

「語りにおいで、私も同じ悩みを抱えてきたよ」と暖かく語りかける先輩お母さんの姿に接しました。ああこれこそ『手をつなぐ』姿なんだなと強く感動した経験があります。

仕事を終えて帰る彼らを街で見かける事があります。数人で連れ立って楽しそうに歩いています。みなさんがニコニコと嬉しそうです。今日一日の仕事を終え、仲間と語り自分を表現し満足している姿です。暖かく迎えてくれる家庭に帰る姿です。

〝つながり〟を学んだ学齢期研修会

学齢期保護者役員　五反 光代

今年度第一回目の学齢期研修会は、ワークセンターふもと所長、谷口みのりさんと、各福祉施設にお子様を通所させていらっしゃる大先輩のお母様方に「先輩の母親として・進路判断への助言」ということで、育成会と各施設とのつながりや、区分等の専門的なことまで、幅広くお話をして頂きました。

私自身、育成会とどう関わってよいか、とても受け身の姿勢であったこと、そして、子どもが成長していくにつれて必要になる、専門的な知識に乏しく、母親としての心構えが足りないと感じていたこともあり、この研修会で、同じ母親としての目線でお話いただけることを、本当に有り難く思っておりました。

谷口さんからは、母親として、そして施設長として、両面からのお話を、先輩のお母様方からは、お子様の置かれている現状から、施設とどう関わっていらっしゃるかを、とても和やかで、温かい雰囲気を作ってくださりながらお話くださいました。

皆様方の何気なく語られる、子育ての歴史の中に、私たちが、学齢期の我が子を育てていく上での〝覚悟〟が見えてくるようであり、また、励まされる思いであります。

そして何より、私の中での育成会が、大きな組織としての存在だけでなく『人とのつながり』へと変化していくのを感じました。

御自身の体験から得た、様々な知識を、惜しみ無くお話してくださる素晴らしい先輩方が、育成会の中でつながっているのだということを知る、実りあるひと時でありました。

私たちのために、貴重なお話を聞かせてくださいましたことに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第二回の学齢期研修会は、「就労の現状・就労支援について」自立支援センターハーモニーの川内崇司先生にお話を頂きます。

常に子どもの一歩・二歩も先を歩かなければならない私たち親に必要な、現状を知り、知識を得る貴重な時間となることと思います。

学齢期研修会開講に向けて、今年度もたくさんの御尽力をくださいました、研修部の先輩のお母様方に深く感謝申し上げ、これからも、学ぶ場を大切に親として日々成長して参りたいと思います。ありがとうございました。

福祉ふれあいフェスティバルへの参加

とまと 施設長　南 ヒサ子

十一月十三日、アリーナで開催された福祉ふれあいフェスティバル。快晴に恵まれ、終日、多くの人出で賑わった一日だった。

育成会では、大テントと模擬店への出店を希望し、事業部で主体的に取り組んでいる。

大テントコーナーでのバザーも年々定着し、開店と同時に会場は身動きも取れなくなる程の盛況ぶりである。このバザー用品は、市内の特別支援学級、特別支援学校、各事業所等会員の方々からの提供品に加え、南日本新聞募集欄に掲載依頼し、広く市民の皆様方からの提供品を集荷実施している。中には、毎年連絡をしていただく方もいらして感謝の気持ちでいっぱいになる。大きなイベントであると同時に、地域の方々へ育成会活動の理解を深めていただく機会でもある。

うどん、おにぎりの模擬店は、『育成会のうどん屋さん』と味も好評、係の方は、お客さんの対応に追われお昼過ぎには完売するという盛況ぶりであった。

前日までの値付け作業や入念な準備を行い、当日は早朝から係として参加していただく方等、育成会ならではの協力態勢が整い、利用者、家族、職員が一体となり楽しむイベントとなっている。

真夏の夜 平川動物園にみんなと行ったよ

育成会事務局長　本田 義己

鹿児島で一番暑いころの夕刻、みんなで平川動物園に行きました。鹿児島市の平川動物園事務局から、「夜の動物園を探訪しませんか?」とのお誘いを受けたのは、昨年六月中旬でした。

平川動物公園管理係長が事務局に来られ、『ドリームナイト・アット・ザ・ズー・ｉｎ平川』を計画しており、障害のある子どもたちとその家族を動物園に招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらう国際的なイベントであり、そのトップバッターとして育成会さんお願いします。」との申し出でした。

私自身、動物の夜の生態を見られるということで大いに興味を示し、各施設や学齢期の保護者グループにも参加を呼びかけ、二十九組の家族、総勢六十八人で夏休みに入った二回目の金曜日である七月二十九日に出かけました。

冬の時期と違い、真夏の夕方六時は明るくまだ暑いので、みなタオルと水筒、そして懐中電灯持参でした。動物園園長さん以下職員の方々が出迎えておられ、宮ヶ原理事長のお礼のあいさつの後、喜び勇んで入園しました。

動物園の御配慮でそれぞれの園舎には係の飼育員がおられ、詳しく説明を聞いたり、動物にじかに触れ合うこともできて、子どもたちだけでなく我々大人も終始楽しむことができました。

昼間の大勢の入場者に見られることもなく、動物もリラックスした表情で動き回っているように感じられ、ホワイトタイガーから最後の北極ぐまを見終わったころにようやく夜を迎え、おみやげまでいただいて動物園を後にした次第です。

平川動物園の職員の皆さん有難うございました。

アシカへのえさやり

動物との触れ合い

ふれあい館コンサートに出演

希望の園

１２月１０日に開催された「ふれあい館コンサート」に初めて出演しました。日ごろからクラブ活動で取り組んでいた『青年おはら節』を踊りました。利用者の皆さんも練習の成果を思う存分発揮し楽しく参加していました。

福祉コラム

障害者虐待防止法について

（「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」平二三・六・二四公布）

Ｑ１　なぜ、このような法律が必要なのですか。

Ａ１　この法律の目的に、「障害者に対する虐待が障害者の尊厳を大きく害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって、虐待を防止することが極めて重要である。」と述べています。

Ｑ２　法律の中身について、その主な内容を紹介して下さい。

Ａ２　まずは、「何人も、障害者に対し、虐待をしてはならない。」と障害者に対する虐待の禁止が規定されています。

また、国及び地方公共団体に対しては、「障害者虐待の予防及び早期発見その他の障害者虐待の防止、また虐待を受けた障害者の迅速かつ適切な保護等々」について、必要な体制の整備に努めることを求めております。

Ｑ３　通報義務の規定について説明して下さい。

Ａ３　虐待を受けたと思われる障害者を発見したものに対して、市町村等に通報する義務を明確に規定しております。もちろん、通報を受けた機関の取るべき措置についても各段階毎に具体的に示しております。

例えば、「市町村は、通報を受けた場合は、当該障害者の安全の確認その他当該通報又は届出に係る事実の確認のための措置を講ずる。」など・・

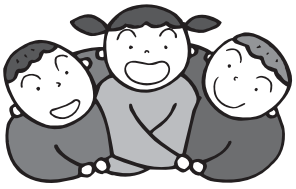
通報に躊躇されることに対しては、刑法や地方公務員法等で言う「守秘義務違反」には当たらないことを条項を設けて解説しております。

Ｑ４　具体的に虐待に当たる行為をどのように規定していますか。

Ａ４　虐待の定義については、「養護者」「障害者福祉施設従事者等」「使用者」に限って、それぞれから障害者が受ける虐待の状況について示しております。

法では、「身体的」「性的」「心理的」「ネグレクト」「経済的」五つの視点から虐待に当たる行為として具体的に示しております。行為の中身については、ここでは紙面の都合で省略いたします。

（文責：広報部）



ふれあいスポーツ大会

街頭広報

犬迫小学校との交流（コスモス）

障害者交流自立支援フライングディスク大会

新任職員紹介

育成センターコスモス

秋元　美代子

利用者の支援を大事に頑張ります。

松元　茂子

笑顔を絶やさないように頑張ります。

第二コスモス

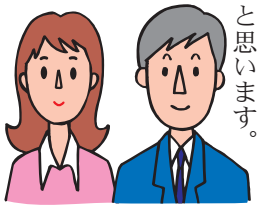
梅北　昌弘

笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。

とまと

米盛　修亮

昨年の八月から、とまとで勤務しています。どんなときでも学ぶ気持ちを大切にして笑顔で頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



編集後記

今号も、皆様方から玉稿をお寄せいただきましてありがとうございました。今後も、皆さんの笑顔あふれる表情と元気になる話題をお伝えしてまいります。

鹿児島市手をつなぐ育成会ホームページ

～手をつなぐ～

ホームページは、鹿児島市の育成会活動を会員みんなと共有するひろばです。

皆様のご意見を是非聞かせていただき、より一層充実したホームページにみんなで育てていきましょう。

http://www.i-omoto.jp/tewotsunagu/